２００５年度　関西まちづくり賞

社団法人　日本都市計画学会関西支部
関西まちづくり賞選考委員会　委員長　小浦　久子

《 総　評 》

2005 年度は、都市計画やまちづくりに取り組んでいる人々に賞の意義を広めていくためには、多様な計画、取り組みや活動における都市計画の観点からの評価対象の広がりをとらえて授賞対象を検討できるようにする必要があると考え、できるだけ多くの応募・推薦を得ることをめざした。また、審査においては、活動やプロジェクトの内容だけではなく、その取り組みにおいて、計画に関わる新しい知見・計画の考え方、都市計画技術や進め方の提案・開発など、都市計画に関わる成果を求めていることが伝わるように、募集要綱においてテーマ『楽しい都市計画』と評価の視点を示すなどの工夫を行った。

その結果、20 件の応募・推薦を得ることができた。委員会で担当（１件につき２名）を決め、応募・推薦書類のほか、補足資料収集や現地調査・ヒアリング調査を行った。担当者の報告にもとづき、第１次審査を行い、12 件を選んだ。このときの審査のポイントは、まちづくり活動においてはしくみが確立し担い手があって取り組みの継続性が認められること、テーマ型活動やイベントであっても地域づくり・都市づくりの視点があること、既に一般化している手法や制度であっても地域課題に応じて使い方や運用に独自の工夫があること、活動途上の場合でも次代の課題を提示している、将来性・展開方向がみえることとした。

第２次審査は、審査対象ごとに、その内容と評価すべき点について、担当者からの報告にもとづいて検討を行い、関西まちづくり賞３件、関西まちづくり貢献賞１件を選出した。

今年度は、持続的な地域づくりを実現している地域の主体的取り組みにおいて、次代のまちづくりの進め方やそこでの専門家の役割の変化を示唆しているものが多かったといえる。いくつかの実験的な試みには、始動したばかりで評価は難しいが、その成果や効果が期待されるものがあった。こうした試みについて、手法や問題解決のアプローチの新しさをどの段階でどのように評価するかは課題である。また、参加・協働は、まちづくりにおいて一般化してきており、むしろ、地域の再生や活性化、地域環境の自主管理、町並み形成など、多様な地域課題について地域ごとに担い手や解決の試みに多様さがみられ、そこから新たなまちづくりの手法や技術の創出や既存手法の組み合わせによる効果の検証が期待されるものであった。しかし、まだ十分そのかたちが確認できなかったことから授賞に至らなかったものが多い。こうした試みは、経過を見続け、評価をしていきたいので、再度の応募を期待している。地域整備や保全・再生を目指す具体的プロジェクトについては、時代のニーズを反映するものであるが、デザインの提案、手法や計画の斬新さが弱く、授賞には至らなかった。

このなかで、関西まちづくり賞に選ばれた３件は、地域に固有の課題に対し、独自の取り組みと制度活用の工夫がみられたものであり、多くの地域にとって参考にできる知見があり、次代につながる視点を提示しているところを評価した。また、関西まちづくり貢献賞とした１件は、まちづくりにおける人材育成の重要性を認識させるものであり、その貢献度を高く評価するものである。

《 講　評 》

関西まちづくり賞　授賞

『紀伊湯浅における住民手づくりの活動から育った町並み再生』（和歌山県湯浅町）

湯浅町熊野古道研究会

湯浅町熊野古道研究会の活動に始まる湯浅のまちづくりは、湯浅で住み働く人々が、魅力的で持続的なまちをめざして、ゆっくり積み重ねてきている活動である。専門家の支援や商工会の活動などと連携しながら、まちの魅力を発見し、学びながら続けるなかで、そのときどきの課題について湯浅型解決法が見られることを評価した。最初は身近なまちの魅力づくりから始まり、醤油づくりの継続や地域の大工技術が町家を残すことにつながるという観点からの町並み再生の取り組みが育ち、伝建地区調査は町並み資源の価値を共有化することに活用している。地場産業や歴史性が観光とつながり始めると、商店会を核にしたTMO もできた。地域の実態や取り組みの進捗にあわせて、既存制度を活用する工夫は、多くの地方都市や集落で持続的なまちづくりに取り組むときの参考になるとともに、これからはそれぞれの地域にあった支援や手法の開発が、専門家に求められていることを示唆するものである。

『新門前通西之町における地区計画策定の取組』（京都市）

西之町まちづくり協議会

新門前通西之町地区では、統廃合により学校が廃止されることから風営法の規制を受けなくなるという規制条件の変化に対して、自分たちのまちの環境を守るため、その規制手法として地区計画の策定を住民が選択した。全員合意型の独自の計画策定プロセスと、建築物等のハードの規制手法である地区計画を策定するとともに、それを補完するソフトのしくみづくり（町式目等）の検討も合わせ総合的なまちづくりを進めて行く取り組みを評価するものである。近隣環境を阻害する要因を規制しようとする多くの取り組みのなかで、多様な生活と仕事があることから利害が対立しやすい商業地において、全ての関係者への情報周知の徹底、ワークショップによる短期間で有効なまちづくり学習と地域課題の共有化、地域の人々がまちの将来像を描き地区計画の方針を書き上げていくプロセスは、計画策定が地域力向上につながる効果を示すものであり、今後の地域のまちづくりにおける都市計画提案の可能性と有効性を示すものである。

『庄屋屋敷を活用した平成の町衆によるまちづくり
ー吹田歴史文化まちづくりセンター（浜屋敷）ー』（大阪府吹田市）

吹田歴史文化まちづくり協会

江戸期の庄屋屋敷を活用した吹田歴史文化まちづくりセンターは、自主管理により開館時間など施設運営が柔軟に行われ、市民・団体による文化・福祉・教育・コミュニティ・まちづくりなど多様な活動拠点となっている。こうした運営により、多くの市民や多様な活動が出会うことによる交流と情報のネットワーク形成や、地域課題への自主的な取り組みを育む拠点として機能しているところを評価した。これまでにもまちづくり支援や情報発信を行うセンター整備は各地に見られるが、自主運営により多様な市民が関心のあるテーマの活動をとおして、地域への関心を高め、多くの出会いのなかで地域に関わっていく力を醸成していくという取り組みはユニークである。次代のまちづくり拠点のあり方を示すものである。

関西まちづくり貢献賞　授賞

今回、まちづくりに大きく貢献する試みとして評価される業績に関西まちづくり貢献賞を授賞することとした。

『「まちづくりガーデナー」育成の取り組みと修了者の活動』（兵庫県淡路市）

兵庫県立淡路景観園芸学校

日本で最も一般的な趣味活動である「園芸」に着目し、「園芸」と「まちづくり」を結びつけ、自らの地域を自らの手で変えていく住民の育成システムを継続的かつ総合的なシステムとして確立してきた。既に3000人以上になった修了生のネットワークが形成され、情報や技術交流を図るNPOも立ち上がり、まちづくりガーデナーとして、それぞれの地域で活動を始めている。地域のまちづくりはひとづくりとも言われ、こうした地域に関わる人材育成は、今後の持続的な地域づくりにとって大きな効果が期待でき、その先駆的取り組みとして評価するものである。

《 今後の課題 》

開発成長から縮小持続型へと都市や地域の計画・デザインをめぐる状況が移行しているときに、これまでの授賞対象をみると、地域のまちづくりや特定の課題解決への取り組みのなかに、新たな主体や場の設定、手法や計画の考え方が模索されていることがわかる。既存の集落や市街地での地域づくりにおいては、そこに住み働く人々が主体的であることはもはや前提となりつつあるなかで、多様な地域づくりの試みから、いかに次代の地域づくり・環境づくりのしくみ、制度や手法、計画技術、デザインの提案を生み出していくかが、専門家に問われているともいえる。また、専門家の現場での役割も多様化している。

このような状況において、今後は、地域での多様な試みのなかに、新たな計画の社会実験や地域および都市構造に関わる計画や取り組み、分権化が進むなかでの地域独自のしくみや制度の創造と活用、次代に夢と期待を抱かせるような持続的環境のデザイン、多分野の連携による都市環境づくりのしくみ、また、こうした活動をささえる場やシステムなどが求められており、こうした都市計画の広がりを授賞によって提示することが重要であろう。そのためにも、土木・建築・造園はもちろんのこと、それらと連携する多様な分野での、地域・行政・市民・専門家などの多くの取り組みや成果の応募や推薦を求められるよう、賞の意味を伝えていく工夫が必要である。

＜２００５年度の関西まちづくり賞の募集・授賞の経過＞

第１回委員会において、まず、これまでの授賞対象の講評について検討し、この賞の意義を確認する作業から始めた。委員会での意見を集約すると以下のようになる。

１）関西の都市計画・まちづくり分野において、まちづくり賞が広く認知され目標となるように、募集・授賞のあり方を検討する。

２）まちづくり活動やプロジェクトの内容だけではなく、その取り組みにおいて、計画に関わる新しい知見・計画の考え方、都市計画技術や手法の提案・開発など、都市計画に関わる成果を評価したい。

３）授賞によって、時代の社会的ニーズや新たな兆候をとらえ、次代につながる視点を提示する。

第２回委員会において、賞のあり方に関する議論をふまえ、今年度の募集要綱を決定した。

１）2005年度まちづくり賞募集要綱

・2005年度テーマ『楽しい都市計画』

分野例：都市デザイン、参画と協働、環境、景観、異文化共生、都市再生、中心市街地活性化、

都市農村交流、都市防犯、防災、まちづくり学習

・評価の視点：新しい時代を画した斬新なもの
次の時代につながるもの
課題を解決した革新的なもの
継続することによって多くの知見が蓄積されたもの、新しい知見を生んだもの
多くの地域で参考となるもの

・募集期間　：2005 年９月１５日～１０月３１日

２）募集のあり方について

・できるだけ多くの応募・推薦を得ることを目標とし、募集・推薦の書類を簡略化してアピール点をわかりやすく記述することを求め、既存の資料やパンフレット、報告の概要版、論文などの添付により補足してもらうようにした

・募集期間を早めることにより、委員会での審査を充実させることとした。

第３回委員会において、応募・推薦対象について、審査の方法と進め方を決めた。

１）募集結果

・募集期間内に、20 件の応募・推薦があった。（大阪９、兵庫６、京都３、奈良１、和歌山１）

２）審査の進め方

・各委員が４件ずつ（１件あたり２名）担当し、応募資料のほかに関連する情報を収集し、必要に応じて、現地調査、関係者ヒアリング等を行い、応募・推薦対象を精査し、評価書を作成する。

・評価書は評価すべき点（自薦・他薦のアピール点と異なっていてもよい）を明確にするものとし、これをふまえて審査することとした。

第４・５回委員会において、授賞対象審査を実施した。

１）第１次審査

担当者の評価報告として、授賞の検討対象に適さない対象を報告、担当者の評価および応募・推薦書類とあわせて、検討対象外を決定した。この結果、１２件を第２次審査対象とした。

このとき、以下の点に着目し、第１次審査を行った。

・まちづくり活動については、取り組みにおけるしくみが確立し、担い手が確認でき継続性がある

・文化、子供、環境などテーマ型活動やイベントであっても、地域づくり、都市づくりの視点がある

・既に一般化している手法や制度であっても、地域課題に応じて使い方や運用に独自の工夫がある

・活動途上の場合は、次代の課題を提示している、将来性・展開方向がみえる

２）第２次審査

検討対象の 12 件について、各担当者がまず実態報告と評価を行い、関連する質疑を行った。12 件の報告・質疑終了後、募集要綱に示した評価の視点から各対象の評価すべき点を検討し、都市計画分野への寄与の観点から評価ポイントを議論した。

このプロセスをふまえ、最終的に、関西まちづくり賞３件、関西まちづくり貢献賞１件を選定した。

2005年度　関西まちづくり賞　選考過程

選考の考え方	第1回	2005.7.19	まちづくり賞の意義
	第2回	2005.8.1	表彰要綱の決定

募　　集	期間	2005.9.15～10.31
	応募	20件

募集テーマ『楽しい都市計画』

評価の視点
- ・新しい時代を画した斬新なもの
- ・次の時代につながるもの
- ・課題を解決した革新的なもの
- ・継続することによって多くの知見が蓄積されたもの、新しい知見を生んだもの
- ・多くの地域で参考となるもの

評価作業方針	第3回	2005.11.9	審査方法と進め方

担当委員による評価シートの作成　　・ﾋｱﾘﾝｸ・現地調査等による資料収集

審　査	1次審査	第4回	2006.1.11	検討対象外を選定 ＜評価ポイント＞ ・取り組みにおける仕組みが確立し、継続性がある ・地域づくり、都市づくりの視点がある ・地域課題に応じて使い方や運用に独自の工夫がある ・活動途上でも、次代の課題を提示しており、将来性・展開方向がみえる
	2次審査	第4回	2006.1.11	①対象事業、活動の説明と評価 ②評価視点の検討 ③都市計画分野への寄与
		第5回	2006.2.8	①対象事業、活動の再確認 ②出席委員投票 ③授賞業績の選定
				④欠席委員への照会
	授賞理由等の整理			

幹事会決定　　2006.3.17

結果の通知　授賞連絡
応募・推薦者通知　　総評添付

記者発表　　和歌山県
京都市
吹田市
淡路県民局

表彰式　ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ　　2006.4.25　15:45～17:45　大阪市立難波市民学習ｾﾝﾀｰ講堂